

令和 8 年度 群馬県 英語教育改善プラン

目標

積極的に英語を用いて自分の思いや考えを発信し、コミュニケーションを図る基礎となる
資質・能力を身に付けた児童を育成する英語教育の推進

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (専科教員含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①児童の主体的な取組を促進するしかけ（伝えたい思いを持つ目的・場面・状況等）を工夫した授業が多く見られる。
- ②言語活動(授業中50%以上)が充実している。
(英語教育実施状況調査 R5 6年:96.3%)

未だ改善が必要な点

- ①外国語の授業において、学習到達目標（CAN-DOリスト）を活用した授業の実施状況に改善の余地が見られる。(県教育課程調査R6:92%,R7:92%)
- ②小中連携について、十分に実施していない学校が見られる。(県教育課程調査 R7:27%)

2. 要因分析

- ①県指導主事会議において英語担当指導主事部会を開催し、実践事例を基にした協議、各市町村の課題の共有、指導助言の方向性の共通理解を図ったことで、各学校における授業改善が進んだと考えられる。
- ②公開授業において、県内の小学校の教職員、教育行政関係者に向けて、授業改善研修会を実施したり、ハイライト動画を公開したりしたことで、言語活動の設定や質の向上への意識が向上していると考えられる。

- ①CAN-DOリストの設定や具体的な活用について、指導助言する機会が十分でないことが要因と考えられる。
- ②小中の学びの接続の重要性について指導する機会が十分でないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①①②「令和 8・9 年度学校エージェンシーを発揮する授業改善プロジェクト」による授業改善の推進
 - ・教師が「～させる」授業から児童生徒が「～する」授業への転換、拡充、外国語活動・外国語科の目標に迫る授業改善の一層の推進を図るため、実践校における全県に向けた授業公開（参集とオンラインのハイブリッド開催）、授業改善研修会、情報交換会も実施する。
 - ・実践校に対し、年間を通して英語担当指導主事（県・市町村）がチーム支援を行い、日々の授業づくりに関わる。
 - ・学習指導案、授業改善研修会資料、公開授業ハイライト動画（県内教職員限定公開）を作成し、実践の成果を周知する。
(参考URL：https://gunma-boe.gsn.ed.jp/cb5189a52e719b24596b0c5e596c33df/page_20231023103724)
- ②小中高の校種の枠を超えた研修の推進
群馬県総合教育センターにて、小中高の校種の枠を超えた合同研修を行う。特別支援の視点を取り入れた授業づくり、生成AIの活用、英語での指導力向上を図るためのスキルアップ、指導と評価の一体化の促進などを視点として、実践的指導力の向上を図る。

令和 8 年度 群馬県 英語教育改善プラン

目標

言語活動の充実を図り、積極的に英語を用いて自分の思いや考えを発信し、
コミュニケーションを図る資質・能力を身に付けた生徒を育成する英語教育の推進

○CEFRA1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7: 59.1% ⇒ R8: 60%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①目的や場面、状況等を工夫した言語活動を単元計画に位置付けた授業が多く見られる。
- ②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、言語活動の充実が図られている。
・指導者と生徒の意識の差
(聞く15.5(R5)⇒11.9(R6)
読む 13⇒10.7
話す(やり取り)16.4⇒16
話す(発表) 8.6⇒6.6
書く 9.7⇒7.6)

未だ改善が必要な点

- ① 中学 3 年生でCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が目標値 (60%) に未だ達していない (R7:59.1%)
- ②小中連携を十分に実施していない学校が見られる。(R7県教育課程調査:27%)

2. 要因分析

- ①②公開授業や授業改善研修会を実施したことで、コミュニケーションにおける目的・場面・状況等の設定の具体や、単元における言語活動の設定についての理解が深まってきており、言語活動の質が高まっていると考えられる。
- ①英語担当指導主事と実践事例を基にした協議、各市町村の課題の共有、指導助言の方向性の共通理解を図ったことで、授業改善が進んだと考えられる。

- ①学習到達目標 (CAN-DOリスト) を基にした具体的な評価規準の設定と、それを活用した見取りの状況に地域間で差が見られる。
- ②学校間の差が見られ、学びのつながりを意識したカリキュラムや学習到達目標の設定への意識の差が大きいことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①①②英語科の目標に迫る授業改善の推進
 - ・生徒の学習改善を推進するため、全国学力・学習状況調査の調査問題を分析し、問題のポイントや解説に加え、学び方を伝える学習サポート動画の作成と公開を行う。
 - ・教師の授業改善を推進するため、全国学力・学習状況調査を活用した授業改善説明会にて、結果分析に基づく授業改善例を提案する。
 - ・小・中学校における授業改善を推進するため、「学校エージェンシーを発揮する授業改善プロジェクト」の授業改善研修会にて、本県が目指す授業の具体や授業改善のポイントを共有する。
 - ・群馬県が目指す授業を具現化した、授業改善プロジェクトハイライト動画を公開する。
 - ・令和 7 年度AIを活用した英語教育強化事業において、研究協力校である群馬大学共同教育学部附属中学校での実践研究の成果や知見を県内に周知する。
- ①ALTが参画する授業改善の推進
 - 各学校のALTに対して指導助言を行うため、ALTアドバイザーを派遣する。ALTとJTEを対象にした群馬県英語教育フォーラムを行う。
- ①②指導力向上を小中高の校種の枠を超えた研修の推進
 - 群馬県総合教育センターにて、小中高の校種の枠を超えた合同研修を行う。特別支援の視点を取り入れた授業づくり、生成AIの活用、英語での図るためのスキルアップ、指導と評価の一体化の促進などを視点として、実践的指導力の向上を図る。

令和 8 年度 群馬県 英語教育改善プラン

言語活動の充実を図り、積極的に英語を用いて自分の思いや考えを発信し、
コミュニケーションを図る資質・能力を身に付けた生徒を育成する英語教育の推進

○CEFRA2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 49.8%、B1以上 26.6% ⇒ R8 : A2以上 52%、B1以上 30%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①R7英語教育実施状況調査結果から、生徒の英語力において、CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒数について改善が見られた。
(R6:48.0%⇒R7:49.8%)
②授業におけるICTを活用した英語での言語活動において、文字によるやり取りの実施状況について改善が見られた。
(R6:37.5%⇒R7:49.2%)

①生徒の英語力の状況については、昨年度より改善の傾向が見られるが、全体としてはなお目標値としていた60%には到達しなかった。

2. 要因分析

①「令和7年度新しい学びのための授業改善事業」の実施においては、公開授業や各校での研修を通じて、言語活動の充実を意識した授業実践が各校で進められたことにより、生徒の英語力の向上につながったと考えられる。
②BYODの促進により、各校において生徒が日常的に端末を活用できる環境が整備されたことから、授業内におけるICT活用の推進が着実に図られている。

①各パフォーマンステストが、生徒の英語力の評価に適切に活用されておらず、CEFR A2レベル相当以上の力を有する生徒数の見取りが十分でないことが要因のひとつと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①「令和8年度新しい学びのための授業改善事業」による授業改善の推進
・外国語科の目標に即した授業の質の向上を図るため、実践研究及び県内全体を対象とした公開授業及び授業研究会を実施する。
・外国語の「見方・考え方」を働かせ、生徒が主体的に取り組むことができる授業実践を促進する。
・目的・場面・状況を明確にした言語活動の設計を支援する。
②群馬県総合教育センターにおいて、小学校・中学校・高等学校の枠を超えた連携を図り、実践的な英語指導力の向上を目的とした合同研修を実施し、英語による授業力を高めるためのスキルアップ研修を行う。

①①「言語活動の質の向上」と「評価と指導の一体化の強化」の促進
・学校訪問等において、指導と連動した評価活動を授業の中に組み込むよう、指導主事による助言を行う。
・授業改善推進員の実践研究の報告を県内全体で共有し、各校での指導改善につなげる。
・パフォーマンステストの実施について、各校の優れた取り組みを県内全体で共有し、評価の実践力向上を図るための実践報告の機会や事例集等の整備を行う。

目標達成状況一覧表

令和8年度様式（様式2）

群馬県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	50.1	60	48	60	49.8	52		55	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		25	21.6	30	20.9	30	26.6	30		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		70	49.1	60	53.5	60		65		65	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		80	77.6	80	70.8	80		85		85	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	73	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	74.3	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		80	77.7	80	83.6	80	85.8	88		90	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		65	38.6	65	34.7	65	34	40		45	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60	57.9	60	59.2	60	59.1	60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		90	75.9	90		90		90		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		90	83.2	90		90		90		90	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	65	67.7	80		80		80		80	
		達成状況の把握（％）	80	72.3	85		85		90		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	36	40	39.7	45	51.7	50		50	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		90	69.6	90		90		90		90	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	98.7	100		100		100		100	
		公表（％）	50	52	60		65		70		75	
		達成状況の把握（％）	80	79.3	85		85		90		90	